

臨床法学教育学会オンラインミニシンポジウム 『平成司法改革の研究』を読む

日時： 2022年12月19日（月）18：30～20：30

場所： オンライン（ZOOM）

ZOOMのアクセス情報は、参加登録をいただいた方に12月17日を目途にメールでお知らせします。

コメンテーター：

三澤英嗣（弁護士）、石田京子（早稲田大学）

パネリスト：

須網隆夫（早稲田大学）、米田憲市（鹿児島大学）、四宮啓（弁護士・國學院大學）

参加登録： 参加ご希望の方は、下記より参加登録をお願いします。

<https://forms.gle/8rfKh1xvuYNTF8dq9>

【企画の趣旨】

本書・須網論文によれば、「平成司法改革は、改革の理論なく行われた。それが、改革が予期した成果を上げられなかった大きな要因である。」（64頁）という。平成司法改革には理論はなかったのか。本当に「挫折」したのか。平成司法改革が「挫折」したとすれば、その要因はどこにあるのか。次の改革には何が必要か。平成司法改革を包括的に総括して教訓を見出し、それを次の司法改革につなげようとする本書をシンポジウムの参加者とともに読んでみたい。

本ミニシンポジウムでは、法科大学院制度発足時から、臨床法学教育、特にライブ・クライアント型のリーガル・クリニック教育に関わってきた、三澤英嗣弁護士（当学会理事）、及び法社会学者、法曹倫理の研究者として法曹養成教育のあり方を研究し、法科大学院教育にも携わってきた石田京子・早稲田大学教授（当学会理事）が本書についてコメントする。その後、本書の編著者である須網隆夫・早稲田大学教授（当学会前理事長）、2本の論文を寄せた米田憲市・鹿児島大学教授（当学会理事長）、四宮啓・弁護士・國學院大學教授（当学会前々理事長）から応答して、パネルディスカッションを行う。また、参加者との議論・意見交換も行う予定である。

以上